３の２　体育科学習指導案

場　所　体　育　館
指導者　稲垣　宏樹

単元名　ボールを持ってダッシュ・タグを奪取（ゴール型ゲーム　タグラグビー）

⑴　めざすコミュニケーションの姿

チームの特性を考え，簡単なきまりを作る（合意形成する）姿

⑵　本時のねらい

既習の掲示物を見たり，グループで話し合ったりして，どんなことに気を付けると得点ができそうかを考えることができる。　（思考力，判断力，表現力等）

⑶　学習の展開

時	学習のながれ	・手だて ◎評価 ★めざすコミュニケーションの姿にせまるための手だて
13	**１．準備と準備運動** ・突破　・チーム練習	・突破ではチーム全員が一度はクリアできるように，走り方の工夫やチームでの協力を促す。
7	**２．本時の課題をつかむ** **＜どうすれば得点がとれそうか＞** ○得点をとるにはどう動けばいいかな。 ・ボールを持ったら，少しでも前に進む。 ・ギリギリまで守りをひきつけて空いたスペースを使う。	・課題意識を明確にするため，前時までに出された気づきを掲示する。
12	**３．ゲーム** ○簡単なきまりをいかしてゲームをしよう。 ・ボールを持った時は守りがいない広い所に走れば得点ができそうだ。 ・ボールを持っていない時はどこに走ればいいかな。	・いい動きを実感させるため，空いているスペースに走りこんだり，守りをひきつけたりしているプレーをほめる。 ・ボールを持っていない時にどこに走ればいいか分かるように，兄弟チームでアドバイスをするよう促す。
8	**４．本時のまとめと学習のふりかえりをする** ○チームで得点するにはどんな工夫をしたのかな。どんな工夫ができそうかな。 ・空いているスペースを作る。 ・守りがいない所に走ったり，パスをしたりする。 空いているスペースに走ったりパスしたりすると得点がとれそうだ	◎グループで話し合い，どんなことに気を付けると得点ができそうか考えることができる。　（発言・行動観察） ★得点のチャンスが広がるようなきまりを作るために，ホワイトボードを活用する。

【実践のウリ】

本来ゴール型ゲームは，攻守が入り交じって運動量が多い。しかし，攻撃時の特にボールを持っていない時，どう動いていいかわからず立ち止まっている場面が見られることがある。その場面を減らすために，チームごとに簡単なきまりを考え，一人一人の役割を明確にした。

【実践例】

ゴール型ゲームは，コート内で攻守が入り交じり，展開の予測がつきにくいため，技能の高い子供がボールを持って一人でゴールまで完結させることがある。運動が苦手な子供は，ゲーム中の運動量が少なくなりがちである。そこで，本単元のタグラグビーでは，攻撃時にチームでの役割を与えたいと考えた。苦手な子の役割として具体的には，①ボールを持った時は，守備を引き付けて，空いたスペースを作る（得点ができそうなら得点をする）　②ボールを持っていない時は，おとりの動きで守備を惑わせる　の二つを考えた。

攻撃時の役割を具体化・可視化するために，チームごとにホワイトボードとマグネットを用意した。まず前時までに，これまでをふり返らせ，チームの一人一人がどう動いたら得点をとることができそうか考えさせた。本時では，自分の考えをもとにグループで話合いの時間を取った。マグネットを動かしながら，自分が走るコースや，パスをする場所やボールの動きを確認していた。少し時間が短く，グループによってはまとまらないところもあった。

【成果】

役割がはっきりしていた子供は，攻撃時にボールを持たない動きで空いたスペースに走りこんだり，おとりになるような走りをしたりしていた。チームに合った簡単なきまりを作って，実践しようとしているチームがあった。運動が苦手な子供でも，自分の考えたきまりをグループ内で説明していた。

【課題】

得点を取ることが目的なのに，せっかく考えたきまりを実践しようとすることが目的になるチームがあった。ホワイトボード上でマグネットを動かすだけではなく，記録しておくとよかった。簡単なきまりの必要性や空いたスペースの有用性について，もっと子供と共通理解を図っておくべきだった。

【資料】

資料１　きまりを実践しようとしている様子

資料２　グループで話し合う姿

２の２　体育科学習指導案

場　所　体　育　館
指導者　出嶋　志津子

単元名　三つ子山ワールドに出ぱつ！（表現リズム遊び）

⑴　めざすコミュニケーションの姿

大げさな動きの共通点や相違点を理解して見つけようとする姿

⑵　本時のねらい

生き物の題材の特徴をとらえ，全身で踊ることができる。　（知識及び技能）

⑶　学習の展開

時	学習のながれ	・手だて　◎評価 ★めざすコミュニケーションの姿にせまるための手だて
7	**１．ウォーミングアップをする** ○「さようならこんにちは」で全身をつかって動こう。 ・友達と向き合って一緒に動くと楽しいな。 ・頭もおなかもひねって動けるよ。	・全身の動きをイメージし，動き続けることができるように，手遊びの動きから始める。
3	**２．本時の課題をつかむ** ・今日から生き物に変身して，三つ子山ワールドに出発するんだね。楽しみだな。 **＜○○にへんしん！大げさな動きって？＞**	・全身をつかった多様な動きを経験させるために特徴をとらえやすい生き物（カエル，ダンゴムシ，チョウ）を題材として動く。
20	**３．生き物になりきって動く** ○□□に変身して，三つ子山に出発だ！何がまっているかな。 ・カエルに変身！「餌だ！」そっと近づいて，手を遠くまでのばしてパッと捕まえるよ。 ○大げさな動きはどんな動きかな ・ダンゴムシに変身！頭や肩が床につくくらい小さく小さく丸まって転がるよ。	★大げさな動きを体験して理解できるように，大げさな友達の動きを全体で共有する。 ・全身をつかった大げさな動きを経験させるためにスローモーションやくりかえしを取り入れる。
6	**４．友達と見合う** ○大げさな動きをしている友達のコツは？ ・遠くにピョーンと回りながら跳ぶときに，腕やつま先までのばしていたよ。 ・羽を大きく広げ，胸まで動かしているね。	★友達の大げさな動きの中から，共通点や相違点を見つけ伝え合うことができるように，観点を明確にしたボードを活用し，合言葉をつかう。
4	**５．本時のまとめと学習のふりかえりをする** 大げさになりきって動くには、○○さんのように頭や胸まで大きく動かしたり、指先からつま先まで体全部をつかったりすればいいんだね。	◎生き物の特徴をとらえて，全身で踊ることができる。 （観察・学習カード）

【実践のウリ】

生き物の特徴をとらえ，なりきって友達と全身で動く楽しさを感じることができるように学習を進めた。動きをイメージし動き続けることができるように，単元を通して毎時間の最初は手遊びの動きから始めた。また動くのも見るのも楽しい大げさな（全身をつかっている，誇張した）動きがどんな動きなのかを理解できるように，よい動きを全体で共有して実際に動いてみた。そうすることで大げさな動きが増え，友達と楽しく全身で動くことができた。

【実践例】

動きをイメージし，全身で動き続けることができるように「さようなら こんにちは」の手遊びから始めた。手遊びから始めることで，全員が楽しく動き続けることができた。

ダンゴムシとカエルに変身では，動きにメリハリがつくように伸びる⇔縮む，跳ぶ⇔止まる，速く⇔遅くなど差がつく動きや空間，時間を多様に変化させる言葉がけを行った。ダンゴムシに変身したA児はお尻まで高く上げて転がりひっくり返った様子を表現していた。そこで，お尻まで上げた動きを大げさな動きと価値付け全体で共有し，実際に動いてみた。友達の大げさな動きを経験し共通点を理解することで，B児はお尻から大きく後転しダンゴムシが転がされる様子を表現していた。クラス全員が同じ空間で，友達の大げさな動きを経験し，自分の動きとの共通点や相違点を実感しながら楽しむことができた。さらに友達の動きから大げさな動きを理解することで子供の大げさな動きが増えていった。

最後に，動かしていた体の部位を確認した。体の部位を示したボードを提示し，「○○が～でステキ！」を合言葉にペアの友達の動きを見合い，よい動きを見付け伝え合った。

【成果】

手遊びの動きから始めることで，抵抗なく全身の動きへと発展させることができた。学校内にある三つ子山のように身近な題材を生活科の虫となかよしと関連付けたことで動きのイメージもふくらみ，様々な動きや大げさな動きが生まれた。動くのも見るのも楽しい全身を使った大げさな動きを，子供の動きの中から教師が価値付け全体で共有しみんなで動いていった。そうすることで，子供の大げさな動きを友達に見てほしい，真似をしてほしいという意欲が高まり，大げさな動きがどんどん増えていった。さらに友達の動きから大げさな動きを理解し，伝えることができるようになっていったと考えた。

【課題】

全体で動いていたときに比べ，ペアで見合うときには動きが小さくなってしまった。ペアで見合うときでも大げさな動きを見せたいと思わせる手だてが必要だった。

【資料】

資料１　ウォーミングアップの様子

資料２　大げさな動きを共有する姿

５の１　体育科学習指導案

場　所　体　育　館
指導者　中前　裕佳

単元名　Throw World～みんなで全身を使って力強く遠くに投げよう！！～（陸上運動　投の運動）

⑴　めざすコミュニケーションの姿

ペアでより遠くに投げることができるフォームを見つけ出そうとする姿

⑵　本時のねらい

よりよい投のフォームを身に付けるために，自己の課題解決にあった練習の場を選ぶなど練習の仕方を工夫するとともに，友達にアドバイスしたり，自分が見つけた運動のこつを友達に伝えたりすることができるようにする。　（思考力，判断力，表現力等）

⑶　学習の展開

時	学習のながれ	・手だて　◎評価 ★めざすコミュニケーションの姿にせまるための手だて
5	**１．体操と準備をする** ○ポイントを意識して全身を動かそう。	★友達とアドバイスし合うことができるように，正しいフォームの四つのポイントを明確にしておく。
5	**２．本時の課題をつかむ** ○どうしたらもっと遠くに投げられるかな。 ・腕を鞭のように振れるようになりたいな。 **＜自分の課題を解決するには　どんな練習をしたらいいかな＞** ・腕を鞭のように振るには「ひじたかスロー」や「スナップスロー」で練習するといいね。	・自分の課題になった練習方法を工夫できるように①練習場所を選ぶこと②動画を有効に活用すること③アドバイスの仕方の三つを確認し，練習の見通しをもつことができるようにする。
5	**３．チャレンジタイム①** ○どこまで投げられるか試してみよう。	・最初に今の力を確かめることで，１時間での伸びを実感できるようにする。
15	**４．レベルアップタイム** ・「ひじたかスロー」で４回転できた。肘が高くなってきて，腕を鞭のように振れるようになってきたよ。 ・自分の投げ方を動画で確認しよう。	★それぞれの練習場所でどのような力を身に付けることが期待できるかを明確にし，友達とともに課題解決に適した練習場所を選ぶことができるようにする。
5	**５．チャレンジタイム②** ○どこまで投げられるようになったかチャレンジしてみよう。	◎よりよい投のフォームを身に付けるために，自己の課題解決にあった練習の場を選ぶなど練習の仕方を工夫するとともに，友達にアドバイスしたり，自分が見つけた運動のこつを友達に伝えたりすることができる。 （観察・学習カード）
5	**６．本時のふりかえりと片付けをする** 自分の課題を解決するために，練習場所を選んだり友達とアドバイスし合ったりしたら遠くまで投げられるようになってきたよ。	

【実践のウリ】

今では投げることが日常化している子供は少なく，本校でもスポーツテストのソフトボール投げの項目はいい結果ではない。もちろん何度も投げれば必然的に上手になるが，時数も限られている授業の中で正しいフォームを身に付けるためには，仲間との協力が必要である。この実践では，どうしたら全身を使って力強く遠くに投げることができるかをみんなで考えながら「投の運動」に取り組んだ。

【実践例】

七つのステージを準備し，それぞれの課題に取り組む中で，自然と投動作に必要な技能を身に付けることができるようにした。

本時では今までみんなで見つけてきた投げるポイント（腕を鞭のようにふるや体重移動，投射角度など）の中で自分の課題が何かを決め，その課題解決に向けて学習を進めた。自分の投フォームを確かめることができるように，各ペアにタブレットも持たせた。ぶら下げられた青玉を力強くたたいて３回転させる「ひじたかスロー」では，「もっと肘を高くして，脚を上げて，強くたたくといいよ。」というアドバイスをしていた。床にボールを打ちつけて，どこまで高くワンバウンドするか試すワンバウンドスローでは,「足をもっと上げて前に足を踏み出すともっと高くバウンドするよ。」とアドバイスをしたりしていた。

最後のチャレンジタイムでは，自分が決めた位置から壁に向かってボールを投げた。授業の最初と終末で同じ位置から投げた子供もいれば，もう少し遠くから投げた子供もいた。このときはペアに動画を撮影してもらい，自分の姿を動画で確認できるようにした。ほとんどの子供は自分が遠くまで投げられるようになったと実感することができていた。

【成果】

単元を通してペアで学習を進めたことで，お互いの伸びを感じながら学習をすることができた。投の運動に意欲的に取り組むために七つのステージを準備したことで楽しみながら技能を身に付けることができた。また，七つのステージの課題，クリア基準を設けたことでお互いに見合ったり声をかけ合ったりしている様子が見られた。

【課題】

ペアで学習を進めたが，十分にアドバイスし合えなかったペアもいた。お互いに声をかけ合い高め合うには，単元を通してクラス全体がレベルアップしているということが分かるような手だて(今日は何人壁にボールが当たったなど)があると，より多くのコミュニケーションが生まれたと考える。

【資料】

資料１　新聞スローステージでの姿

資料２　ひじたかスローステージでの姿